

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォーカルセオリー	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1996年メジャーデビュー。TV音楽番組に出演し、多数の有名アーティストと共演。その後も自身のバンドで活動する傍ら、有名アーティストのレコーディング参加、レコード会社の新人サポート等を行う。				
授業概要					
ヴォーカリストが音楽を理解するにおいて、メロディーラインを作る時などに必要な理論を学ぶ。更に、コードの意味やメロディーとの関係などを解説し、曲作りの方法として学んでいく。					
到達目標					
楽譜の書き方、読み方の修得。 iPadでのDAWの方法から、オリジナル曲のオケ作成のノウハウを修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	リズムトレーニングと合わせた音符・休符の長さ、iPadを使用した音程の表記、小節の概念の解説。
【前期】 6～10回目	2つの音程におけるインターバル
【前期】 11～15回目	インターバルの考えを元にトライアドコードの解説。 コードネームと五線譜上の表記、実際に聴こえる音を紐付け、コードの転回形。
【前期】 16～21回目	7thコード(7、M7、m7、mM7)の解説。 ダイアトニックコードの考え方 Garagebandを使ったトラックメイク
【後期】 1～5回目	Garagebandの基本的な操作
【後期】 6～10回目	Garageband使用における入力のコツ
【後期】 11～15回目	Garagebandを使用してメロディとコード、メロディとリズムの関係を再考
【後期】 16～19回目	Garagebandを使用した作曲
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	曲作りやレコーディングの現場に必要な音楽理論を軽視しないこと。更に、オリジナル曲を歌ってこそ自らの歌を形成出来ることに重きを置いて、その理論を曲作りに活かせること。
使用教科書	目的に沿って考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	セルフプロデュース		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験15年 これまでに数々のコンクールで入賞し、クラシック楽曲のバスソリストを務める。2006年よりオペラの他、新作の音楽劇、またミュージカル等にも多数出演。日本語歌唱を得意とし、幅広いレパートリーを持つ。</p>				
授業概要					
<p>自らを業界に“売り込む”方法を履歴書、オーディション用紙等の紙面および面談用の時事・社会問題の選択等、自分を知らってもらう為に必要なスキルや、自分に興味を持ってもらう為のスキルについて学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>社会に最善のプレゼンテーションする力を養う。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の説明とオリエンテーション ・自己紹介 ・自己分析 I ・履歴書作成 ・履歴書からオーディション用紙への応用
【前期】 6～10回目	<ul style="list-style-type: none"> ・自己PRについて ・オーディションとは？ ・文章表現 I ・人前に立つ上での自分バランス ・自己分析
【前期】 11～15回目	<ul style="list-style-type: none"> ・写真に撮られる ・楽曲の歌詞における言葉表現の考察 I ・楽曲の歌詞における言葉表現の考察 II ・文章表現 II ・日本語表現
【前期】 16～19回目	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現 III ・文章表現 IV ・文章表現 V ・サウンドとしての日本語 ・プロナンシエーション I ・プロナンシエーション II
【後期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の歌詞における言葉表現の考察 III ・日本語と多言語 I ・日本語と多言語 II ・カメラ機能を使ったバラエティ豊かな表現
【後期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> ・時事について考える I ・時事について考える II ・時事について考える III ・社会問題と音楽 I
【後期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題と音楽 II ・社会問題と音楽 III ・コーラスワーク ・自己表現 I
【後期】 13～17回目	<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現 II ・自己表現 III ・ミュージシャンに出来ること I ・ミュージシャンに出来ること II
【後期】 17～20回目	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージシャンに出来ること III ・ミュージシャンに出来ること IV ・セルフプロデュースとは
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>
学生へのメッセージ	<p>当たり前を知っておくべき知識は、必ず必要になる。ただ歌うことが出来るだけではなく、歌っている時間以外の様々なことへの対応力を軽んじないこと。</p>
使用教科書	<p>目的に沿って作成したテキストを使用。</p>

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォーカリスト基礎知識	授業形態 / 必・選	講義	必修
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験28年 コーラスワークを中心に活動。ポップス、ロック、サルサ、オールディーズ、歌謡曲、演歌などジャンルを問わずさまざまな歌い手のライブサポートやレコーディング、CMなどのスタジオワークを経験。			
授業概要				
「ウォームアップの方法」など、ヴォーカリストとしての基礎知識を学ぶ				
到達目標				
ヴォーカリストとしての基礎知識を学ぶことによって、ヴォーカリストとして活動していく上での常識を身に着け				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	◆体・声帯の構造を知る
【前期】 6～10回目	◆ウォーミング法
【前期】 11～15回目	◆病気予防・ケアの仕方
【前期】 16～20回目	◆読譜・マスター譜作成
【後期】 1～5回目	◆コーラスワーク
【後期】 6～10回目	◆パーソナルカラー
【後期】 11～15回目	◆滑舌
【後期】 16～20回目	◆音楽の歴史
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ヴォーカリストは何を目的とし、何を重んじ、何に注意する必要があるのか。これらを身体面、精神面の両面から理解し、それを歌のスキルを高めることと同等に重んじること。
使用教科書	目的に沿って考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座A	授業形態 / 必・選		講義		必修	
		年次	年間授業数	年間単位数	5単位		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	1年次	5単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	<input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経歴23年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。						
授業概要							
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。							
到達目標							
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～4回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 5～9回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 10～13回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 14～19回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	フィジカルトレーニング I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験27年 ダンスヴォーカルユニットのヴォーカルとして1994年メジャーデビュー。現在ヴォーカル&ダンス講師、ソロヴォーカリスト、バンド、ユニットなど活動中。				
授業概要					
歌に必要な筋肉、ステージ上でより良い印象を与える為の身体作り。 身体を使いリズムを取るなどの「身体」での表現方法の考察。					
到達目標					
日常的にトレーニングを行い、アーティストとして相応しい体を作り上げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ストレッチ アイソレーション
【前期】 4～6回目	リズムトレーニング(アップ、ダウン) 体幹トレーニング
【前期】 7～9回目	有酸素運動 自重トレーニング
【前期】 10回目～20回目 【後期】 1回目～19回目	以上のトレーニングを講師が毎回確認し、各人に必要となるトレーニングを指導する。 また、トレーニングの仕方もチェックし、正しいトレーニングがされていない場合、修正指導を行う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	身に付けるべき発声法、ステージでの立ち姿、軽やかな動き、これらの持久力を身に付けることは、先ずは根本的な体力、筋力、体幹の強さからなることを十分に理解した上で、楽器としての身体を作り上げていくことを常に心がけること。
使用教科書	自ら考案したストレッチ、体幹トレーニングなどのメソッド集を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォイストレーニング I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験10年 幼少期から合唱団などに所属しながら、ミュージカルなどにも出演。高校時代にはバンド活動を行う。2011年配信リリース。現在はヴォーカリストとしてソロ活動の他、コーラスワークやMC、モデルなども行う。				
授業概要					
歌うための体の使い方(腹式呼吸、共鳴など)を学ぶ。 身に付ける為のシンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。					
到達目標					
発声に必要な体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。 各カテゴリーに対して、その概念を理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	身体作り
【前期】 7～12回目	滑舌
【前期】 13～20回目	共鳴
【後期】 1～8回目	支え、横隔膜(応用)
【後期】 9～16回目	低音の強化
【後期】 17～19回目	一年間の総復習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的な発声法を身に付けることは、何よりも重要。それを取り入れない、人に嫌悪感や違和感を感じさせる自分の歌いクセや欠点を“個性”の名の元に正当化しないこと。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案した発声メソッド集を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(ヴォイストレーニング) I	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>			
担当講師 実務経歴	実務経験15年 ソウル、ロック、ゴスペルを学び、2006年テレビ東京番組エンディング曲でCDデビュー。ソロ活動と共にメジャーアーティストの他、レゲエアーティストのサポートワークも続ける。メジャーアーティストのトレーニング、プロダクションでの養成を行っている。			
授業概要				
ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込めているかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。				
到達目標				
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	姿勢の矯正、曲内での実践、修正、底上げ
【前期】 6～10回目	腹式発声、腹式呼吸の曲内での実践、修正、底上げ
【前期】 11～15回目	滑舌の曲内での実践、修正、底上げ
【前期】 16～21回目	前期分のまとめ
【後期】 1～5回目	共鳴の曲内での実践、修正、底上げ
【後期】 6～10回目	支えの曲内での実践、修正、底上げ
【後期】 11～15回目	後期のまとめ
【後期】 16～19回目	一年間の総まとめ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	フレーズに対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違う。その重要さを理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方をより高めて、声だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(テクニック&リズム) I	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験4年 作詞作曲を手掛け、サウンドプロデューサーが立ち上げたプロジェクトにも参加し、仮唄や作詞家、ライブ などヴォーカリストとして精力的に活動している。			
授業概要				
拍節の概念の周知から始め、Tempo、拍子、拍(4,8,16beat)、Groove を身に付け、歌唱する際にメロディ内のリズム認識を高めていく。また、歌唱における様々なテクニックを習得し、表現力を高めていく。				
到達目標				
立体的にサウンドを感じられるようリズムという概念を強化し、自発的にリズムを生み出す力を養う。また、歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、“伝える歌”を歌えることを目指す。				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション
【前期】 6～10回目	課題曲歌唱。 自由曲準備 自由曲分析
【前期】 11～15回目	拍子解説、実践、8Beat解説、実践 テクニック解説、実践
【前期】 16～19回目	ダウンビート、アップビート分析、解説、実践 ヴィブラート、アクセント分析、実践
【後期】 1～5回目	自由曲(2曲目)分析 16Beat解説、実践。バンドアップ、バンドダウン解説、実践
【後期】 6～10回目	タイ、シンコペーション分析、解説。ウィスパーヴォイス、エッジヴォイス、ポルメンタメント分析、実践
【後期】 11～15回目	自由曲分析深化、実践。
【後期】 16～20回目	習得してきたスキルの発展、自由曲に合ったリズムの習得及び理解。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	現在の音楽で重要視される“リズム”“テクニック”というカテゴリーを自分の歌の中で軽視しないこと。特にバラードタイプの曲を歌う時に平坦にならない、グルーブと説得力ある歌にすることを心がけること。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(クリエイト) I	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	<p>実務経験32年 ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。 狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。</p>			
授業概要	<p>自由に課題曲を選び、発声、テクニック、ステージングなど全ての面で、その曲を仕上げていく。自分以外の学生が歌っている時はそれを評価し、それに対して講師がどう指導するかを聞き、自分の着眼点の補正を図る。</p>			
到達目標	<p>自分の個性、キャラを活かす方法を理解し、ステージやオーディションへと繋げていく。</p>			

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	自由曲1曲をレッスン曲として選曲。 ・マイクの指向性とマイキングについて ・衣装についての指導 ・ステージング指導
【前期】 6～10回目	ワンコーラス仕上げ。 ・歌唱指導 ・ステージング指導
【前期】 11～15回目	ワンコーラス仕上げ。 ・歌唱指導 ・ステージング指導 ・MC実習
【前期】 16～20回目	フルコーラス仕上げ。 ※各指導は継続して行う。
【後期】 1～5回目	ヴォーカル系イベント対策。
【後期】 6～10回目	発表会に向けたワンコーラス仕上げ。 ファイナルコンテストに向けたワンコーラス仕上げ。
【後期】 11～15回目	フルコーラス仕上げる。
【後期】 16～20回目	1・2年生合同発表会に向けたフルコーラス仕上げ。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自分の歌を作り上げていくには、「基礎力+個性」であることを理解した上で、どちらか一方のみを重視しないこと。更に、自分の声、キャラクターを自らが知る“自己分析”を深く行い、それを歌に活かすこと。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。			
授業概要				
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。				
到達目標				
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。				

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAW I	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験12年 音声合成ソフトを使ったLP盤を制作するなど、前衛的な表現活動で注目されている。TVCMへの出演や、コンビニエンスストアのイメージソング提供をきっかけにメディアへの露出を始め、アーティスト活動以外に作家やタレントとしての顔を持つ。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～2回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
3～4回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
5～8回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
9～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～20回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今は誰でもDAWを使用して音楽が作れる時代ですので、自分の音楽制作の幅を広げる為に楽しく学びましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択作曲法	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	20回(40単位時間)	1年次	年間単位数
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験36年 様々なアーティストのライブツアーに参加する一方、アレンジャー・キーボーディストとしても活動する。また、ミュージカル、舞台劇、映画、TVドラマ等の音楽制作に当たる。キーボードの教則本を出版しており、近年はトレーナーとしても活動。				
授業概要					
楽曲を分析する事でコード理論を学び作曲に応用する方法を習得する					
到達目標					
音階と調性や音階上に出来る基本コード(ダイアトニックコード)などの基本理論を学ぶ 楽曲を音楽理論的に分析する力を養う 作曲に必要なプロセスを具体的な例を使いながら習得する					

授業計画・内容	
1～2回目	音階とは何か「調」「key」「音域」の定義 音階上にできる基本コード(ダイアトニックコード)
3～4回目	コードの構成音とコードの機能 ディグリを理解することによって調性とコードの機能を正しく理解する
5～8回目	メロディーとコードの関係「和声音」「非和声音」 メロディーの動き「順次進行」「跳躍進行」
9～12回目	キー判定。終始感のある音を見つける事でその曲のキーを判定する 課題曲のコードにディグリを記入する
13～16回目	コード進行の特徴を理解する コードの構成音を理解しメロディーが和声音か非和声音かを区別する
17～20回目	曲のテンポとリズムパターンを聞き取り簡単なリズム譜を作成する
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音階や調、コード理論を正しく理解する事で音楽をより深く具体的に理解し、作曲や楽器の演奏・歌唱の表現につなげる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブル I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲に対しての完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。 ・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。
4～6回目	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。 ・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。 ・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。
7～9回目	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。 ・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。
10～12回目	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。 ・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。
13～16回目	曲に対しての、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～20回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカル I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験28年 コーラスワークを中心に活動。ポップス、ロック、サルサ、オールディーズ、歌謡曲、演歌などジャンルを問わずさまざまな歌手のライブサポートやレコーディング、CMなどのスタジオワークを経験。				
授業概要					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
到達目標					
歌唱を通して、アーティストに必要不可欠な「人前でのステージング」に対する自信を培う。 また、技術だけではなく仕組みを学ぶことで、自主的にも継続可能な練習へつなげる。					

授業計画・内容	
1～2回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
3～4回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
5～8回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
9～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～20回目	これまでに学んだことを活かして、合同発表会を行う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギター I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴7年 自身のバンドのギターリストとして活動開始。解散後、サポートギターリストとしてのキャリアを開始し、現在は音楽専門学校で後進の育成も務めている。				
授業概要					
エレキギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
エレキギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明
3～4回目	オープンコードの習得
5～8回目	パワーコードの習得
9～12回目	簡単なコード進行の習得
13～16回目	課題曲を用いての演奏
17～20回目	マルチエフェクターの使用方法和サウンドメイキングについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アコースティックギター	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 自身のバンドでの活動と並行して、サポート・ギタリストとして活動開始。 現在はギターレッスン、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校での後進の育成など、幅広く活動中。				
授業概要					
アコースティックギターの基礎的な演奏方法や、コード進行の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
アコースティックギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。
3～4回目	8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
5～8回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。
9～12回目	主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
13～16回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。
17～20回目	アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アコースティックギターの演奏を習得して、アーティストとしての表現の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベース I		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験39年 1982年から100人以上の歌手のサポートを務める。自身がメンバーとして参加する複数のバンドにおいても多数のCDをリリースし、全国各地でコンサート活動を行う。有名ミュージカルの全国公演を含む、多数のミュージカルにも参加。ベースの教則本を執筆。				
授業概要					
ベースの奏法やそれに準じた音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
課題曲におけるベースラインの演奏が可能になる。					

授業計画・内容	
1～2回目	チューニング方法と右手の2フィンガーピッキングの奏法。
3～4回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
5～8回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
9～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。ピック奏法。
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲をメトロノームと一緒に演奏。
17～20回目	簡単なリフ等を演奏。楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラム I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験21年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。ドラムの教則本を出版。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～2回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
3～4回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート:様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
5～8回目	フィルイン:8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
9～12回目	16ビート:16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
13～16回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
17～20回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボード I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。</p>				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンス I	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 アメリカへの留学経験もあり、帰国後は女性シンガーの専属ダンサーとして全てのステージで10年間メインダンサーを務める。 現在のジャンルはJazz Funkを中心に、Body Makingのインストラクターとしても活動中。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～2回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
3～4回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
5～8回目	音楽やリズムに合った身体の動かし方を学ぶ。
9～12回目	課題曲を使用してのリズムの取り方と、振り付けをパートごとに練習する。
13～16回目	課題曲および振り付けを使用して、1曲通して練習する。
17～20回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的な身体の動かし方など、初歩の部分から初めていきますので、楽しみながらダンスの基礎を習得してください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択リズムアンサンブル	授業形態 / 必・選		実習 選択	
		年次	20回(40単位時間)	1年次	年間単位数
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 卒業後アフリカンドラムに出会い、さらに造詣を深める為アフリカへ渡る。 帰国後はベーシスト、パーカッショニスト、ギタリストとマルチプレーヤーとして現在も活躍中。				
授業概要					
歌を歌うこと、楽器の演奏、ダンス等、音楽を通しての表現を行う中で、要素としての「リズム」にまつわることをパーカッションを使用して体験し学んでいく授業。同時に「グループ」というものは何かということを実際に経験出来る授業である。					
到達目標					
リズムに対する考え方や感じ方から、アンサンブルの基本(ダンス等も含めた広い意味でのアンサンブル)、お互いの音や声や動きの捉え方などを広く学び、習得する。					

授業計画・内容	
1～2回目	使用するパーカッション『ジェンベ』『ドゥンドゥン』の楽器としての構造、発祥した地域、簡単な歴史、構え方、音の出し方などの解説。
3～4回目	練習用の簡単なフレーズを通して実際に音を出してみる。そして、その楽器のサウンドを知る。
5～8回目	実際のアフリカの伝統的なリズムのフレーズを学ぶ。
9～12回目	同じリズムの中にも各楽器において1種類から3種類程度のフレーズがあるのでそれを学ぶ。それを合奏することで「ポリリズム」を学ぶ。
13～16回目	一人ずつ個別に練習するのではなく、全員で合わせて合奏しながら反復していく。
17～20回目	イントロやアウトロのフレーズなどをつけ曲にしていく。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	一貫してパーカッションを使用するがその楽器の上達が第一目標ではなく、あくまでもアンサンブルをする上での重要なノウハウとリズムについてを学ぶことが目的である。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。